

読賣新聞

2005年(平成17年)6月23日 木曜日

三陸・岩手沖 震度4でも

高さ20メートル大津波

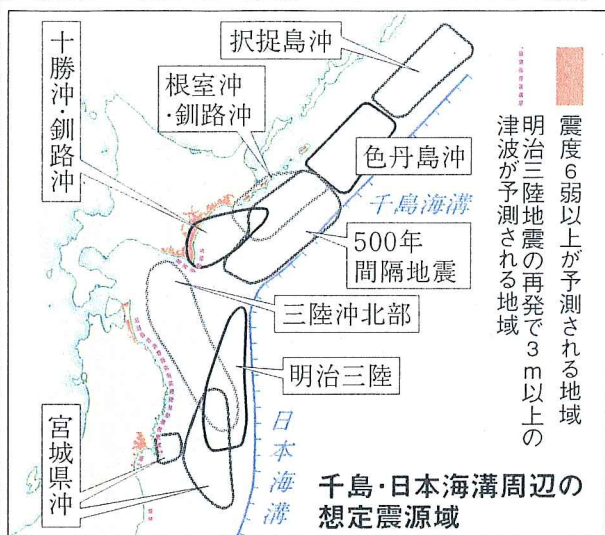
中央防災予測
会議

国の中央防災会議の専門調査会(座長・溝上恵東大名誉教授)は22日、千島海溝と日本海溝周辺を震源とし、北海道から房総沖にかけての太平洋沿岸で発生が予想される大地震について、各地の震度と津波の高さを推計した。国は今秋をメドに被害想定をまとめ、年内に防災対策を策定する方針。

二つの海溝周辺では、海側のプレート(岩板)が陸側のプレートの下に沈み込んで、このため、マグニチュード(M)7〜8級の大地震が数十年から数百年単位で起きており、津波を伴うことも少なくない。

専門調査会は①択捉島沖②色丹島沖③根室沖・釧路沖④十勝沖・釧路沖⑤三陸沖⑥宮城県沖——をそれぞれ震源とする六つの地震を想定し、震度を予測。これに陸地での揺れは小さいが、大津波をもたらした明治三陸地震タイプ⑧北海道東方沖を震源とする500年間隔の地震——を加えた八つの地震について、津波の高さを予測した。

その結果、最も強い揺れが予想されるのは十勝沖・釧路沖を震源とするM8.2の地震が発生した場合。推計震度は北海道の日高地方や十勝地方の一部で震度6強となった。次の発生



推定震度と津波の高さ(最大値)

震源	震度	津波の高さ
択捉島沖	6弱(択捉島)	約4m(択捉島)
色丹島沖	6弱(色丹島)	約9m(色丹島、択捉島)
根室沖・釧路沖	6弱(根室市など)	約6m(根室市など)
十勝沖・釧路沖	6強(広尾町など)	約2m(えりも町など)
三陸沖北部	6弱(青森県の太平洋岸など)	約7m(八戸市、大船渡市など)
宮城県沖	6弱(仙台市、石巻市など)	10m以上(大船渡市)
明治三陸地震	4以下の見込み	20m以上(三陸海岸)
500年間隔地震	不明	15m以上(えりも町など)

※は切迫性が高いと考えられる地震

津波の高さを予測した。その結果、最も強い揺れが予想されるのは十勝沖・釧路沖を震源とするM8.2の地震が発生した場合。推計震度は北海道の日高地方や十勝地方の一部で震度6強となった。次の発生

が切迫していると考えられる宮城県沖地震の推計震度は、仙台市の一部などで6弱などだった。

大津波が懸念されるのは明治三陸地震のタイプ。震度は最大でも4程度とみられるが、三陸海岸のほぼ全域で5以上の津波が押し寄せ、岩手県の宮古市や大船渡市では20以上に達する。